

私たちの目になり 情報を届けてくれ てありがとう



うえはら とよきち
上原 豊吉さん

約10年前から視力が落ちはじめ、3年前からは明るさを確認できる程度だと話す上原豊吉さん。普段はウォーキングや地域デイサービスで同年代と話することが楽しみといいますが、「目が見えなくなると、自分の家でも物にぶつかる。1人では外に出れない。とても不便なものだよ」と話します。

上原さんが声の広報いとまんを聞き始めたのは約10年前。「毎月届く声の広報で、市の情報を把握している。この前も確定申告の情報を声の広報で聞いて、ヘルパーさんと一緒に会場に行ってきた」といい、「声の広報のほかに市の情報を知る手段が少ないから、とても助かってるよ。ありがとう」と感謝を伝えます。

「何回も繰り返し聞くから、いつの間にか覚えてしまっていることもあるよ」と笑顔で話し、「声の広報は祭りや

地域で行われた写真の情報まで教えてくれるから聞いていて楽しい。もう写真は見るができないので、これからは私たちの目になって教えてくれるとうれしい」と話しました。



ヘルパーさんと毎朝のウォーキング

ウォーキングのあと、一息つきながら仲間とゆんたく



ふくもと のぶみ
福元 信美さん

一つ一つの表現が伝わるように頑張っています。

継続して活動できることを目標にサークルの皆さんと頑張ってきました。音訳は表紙を担当することが多く、どのように表現したら伝わるのか毎回悩みながら音訳原稿を作成しています。



さがら みえこ
相良 みえ子さん

私ができる範囲で頑張っています。

7年ほど前に図書館でラッキーマウスのことを知り活動に参加しました。インタビュー記事が読んでいて楽しいです。障害のある人と関わりを持つことは少ないので、いろいろなことを知る良い機会になっています。



たなか きょうこ
田中 京子さん

メンバーとの交流が楽しくて続けています。

約20年活動に参加しています。メンバーと交流することが楽しくて続けてこれたと思います。地名や方言の発音は難しいですが、障害のある人に自身の声で情報を届けられることがやりがいになっています。



たかはし のぶお
高橋 伸夫さん

マイペースに20年続けています。

録音が終わったときの達成感が良い気持ちで、音訳を続けてこれました。やるなら長く続けようと始めて、約20年になります。マイペースで活動できたことが、ここまで長く続けられた秘訣だと思います。

く、視力があっても活字を読むことが困難な人、肢体不自由などでページをめくれない人など、視覚障害者以外にもニーズはあると思います。周りに必要としている人がいれば、積極的に声の広報を紹介して欲しいです」といいます。

コロナ禍以前、ラッキーマウスは声の広報利用者と年に一度、交流会を実施していま

した。「利用者の皆さん、カラオケが好きなんです。ですので交流会はいつもカラオケ。皆さん元気があって楽しいですよ」と話します。「仕事やご家庭が忙しく引退された人もいますが、これまで社会福祉協議会職員や多くの人が活動に参加してくれて長い間活動を続けてこられました。また、県外に転出して、データ転

現在、声の広報いとまんはCDで利用者に配布していますが、「以前はテープレコーダーで録音・編集し配布をしていました。CDとは違い、間違えたところだけ修正するこ



参考になっているテキスト

音訳サークル「リーディングサービス・ラッキーマウス」(以下、ラッキーマウス)は、糸満市社会福祉協議会が実施した音訳講座を契機に平成7年発足し、今年で29年目を迎えます。ラッキーマウス会長の大城ひかるさんは「初心者が集まり、県外自治体の音訳テープを参考にしながら、スタートしたので、発足から2年ほどは音訳の勉強をしつつ、声の広報を発行してました」と話します。

声で伝える。声でつながる。



当時録音していたテープ

とができないため、読み直すのは大変でした」といいます。「ただ、テープで配布していたときは、利用者へ新しいテープを渡して、古いテープを預かる。このとき、利用者とのコミュニケーションができ、安否確認できたのは良い点でし



リーディングサービス ラッキーマウス
おおしろ
会長 大城 ひかる さん

た」と話します。視覚障害がある市民は200人を超えますが、声の広報の利用者は多くありません。大城さんは「視覚障害者でも、不要だという人もいないから、必要だという人もいないから、声の広報をやめて良い理由にはなりません。障害のある、な

つながる。